

[成果情報名] ヤブツバキの幹に寄生するヒノキバヤドリギの駆除方法

[要約] ヤブツバキの幹に寄生するヒノキバヤドリギは、アルミテープを被覆することで89%駆除できる。

[キーワード] ヤブツバキ、ヒノキバヤドリギ、駆除

[担当] 長崎県農林技術開発センター・森林研究部門

[連絡先] (代表) 0957-26-3330

[区分] 林業

[分類] 普及

[作成年度] 2024 年度

[背景・ねらい]

ヤブツバキに半寄生するヒノキバヤドリギ (*Korthalsella japonica*) の被害が五島列島において広がっている。ヒノキバヤドリギの駆除方法は、林内にヒノキバヤドリギを残さないように断幹する方法が最も効果的である。これまで、ヒノキバヤドリギが直径約1 cm 程度の枝に寄生した場合の駆除方法としてアルミテープを吸器部分に巻いて遮光することが有効であることわかっているが、幹に寄生した場合(写真 1, 2)の駆除方法は検証されていないことから、遮光によるヒノキバヤドリギの駆除効果を検証する。

[成果の内容・特徴]

1. 幹および枝に寄生したヒノキバヤドリギは、アルミテープによる遮光後、約 400 日経過すると 89%枯死する(図 1)。
2. ヤブツバキの幹に寄生したヒノキバヤドリギはアルミテープを吸器部分へ巻くことで駆除できる(図 2)。

[成果の活用面・留意点]

1. ヤブツバキを断幹せずにヒノキバヤドリギを駆除することができる。
2. アルミテープは剥離するため、3 か月に 1 度程度の確認をおこない、剥離していた場合は交換が必要である。
3. 遮光する際に用いるテープは、クリアテープ、ガムテープ、アルミテープのうちアルミテープが最も遮光効果が高い。
4. この試験の対象とした「幹」は、2 ～ 7 cmの枝を指す。

表 調査地概要

場所	五島市三井楽町大川
調査時期	2023年8月17日 ～2024年10月28日
被覆本数	9本



写真 1 ヒノキバヤドリギの寄生



写真 2 ヒノキバヤドリギの吸器部分



写真 3 枯死したヒノキバヤドリギ

[具体的データ]

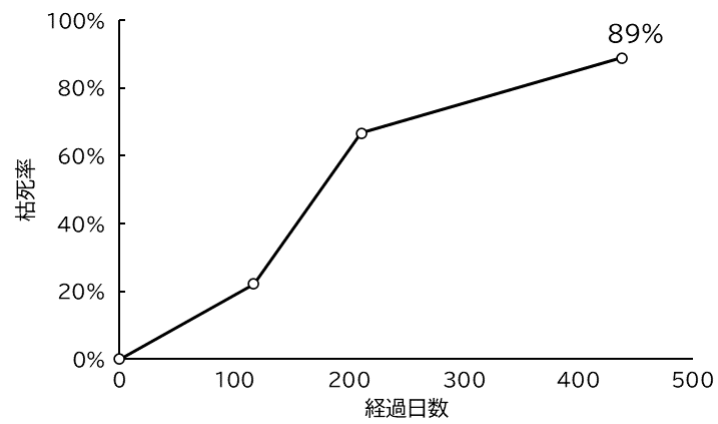


図1 幹に寄生したヒノキバヤドリギの枯死過程

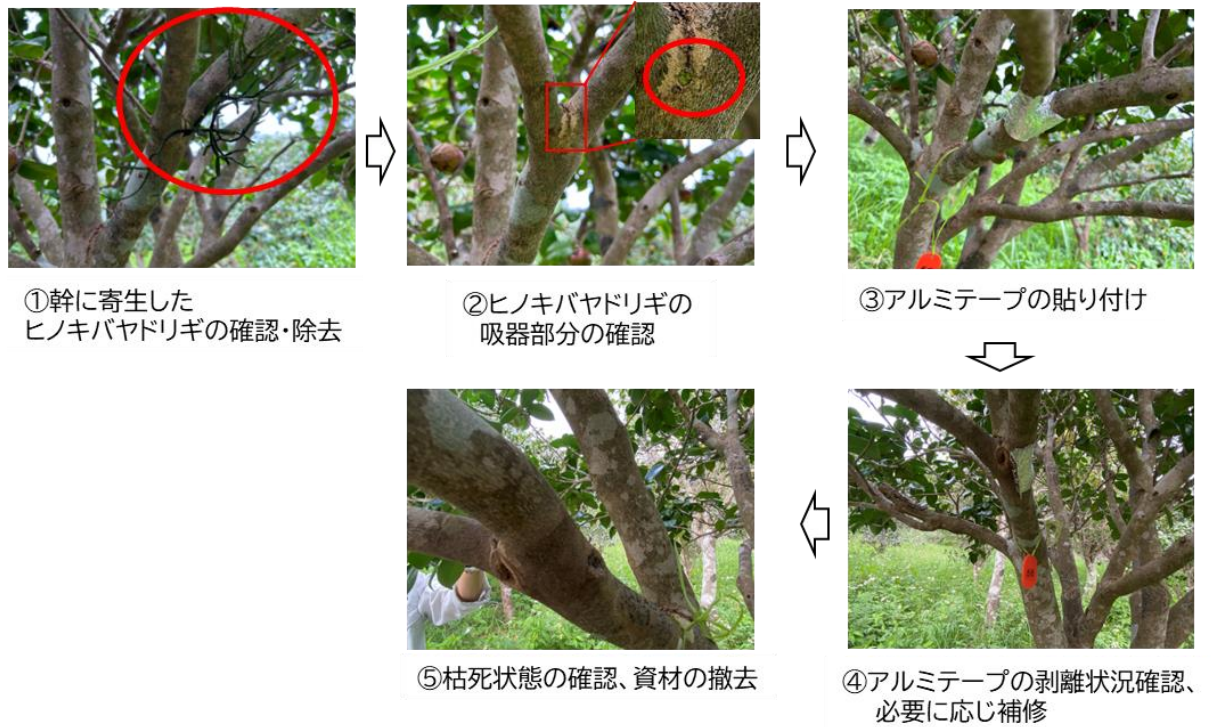


図2 アルミテープによるヒノキバヤドリギの駆除方法 フロー図

[その他]

研究課題名：森の恵み効果拡大事業

予算区分：県単（行政要望）

研究期間：2023～2024 年度

研究担当者：保坂耕平、前田 一